

## 米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

### 米国：2019年7月11日公表 USDA Crop Production

#### 5月農業概況（2019年6月11日）

5月はカリフォルニア州、コーンベルト地帯、大平原地域、ニューイングランド州、ロッキー山地及び南西部で気温が平年並みを下回り、5月の平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った。しかし、大西洋沿岸地域中部、フロリダ州、五大湖南部地域、ミシシッピー渓谷地域及び太平洋沿岸北西部では、5月の平均気温が平年並みを1.1℃以上上回った。米国全体では5月の降水量が平年並みを上回った。コーンベルト地帯、デルタ地帯及び大平原地域では5月の降水量が254mm以上となった地域があった。しかし、カナダとの国境沿いの諸州の北部、太平洋沿岸南西部、太平洋沿岸北西部及び南東部では乾燥が続いた。

#### 6月農業概況（2019年7月11日）

6月の平均気温は米国の大部分で平年並みを下回り、特にデルタ地帯、五大湖地域、大平原地域、大西洋沿岸中部、ミシシッピー

渓谷北部、北西部、ロッキー山地及び南西部で、6月の平均気温が平年並みを1.1℃下回った。しかしアラバマ州、カリフォルニア州、ジョージア州、フロリダ州、テキサス州南部及び太平洋沿岸南西部では、6月の平均気温が平年並みを2.2℃以上上回った地域があった。6月の降水量は、米国の東側の半分の諸州で平年並みを上回った。カンザス州、大西洋沿岸中部、ミシシッピー渓谷、オハイオ渓谷、オクラホマ州、南西部及びテキサス州東部では、6月の降水量が254mm以上となった。しかしカリフォルニア州、太平洋沿岸北西部、ロッキー山地及び南西部では乾燥が続いた。

### カナダ：2019年6月14日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops,

本報告書は、5月に公表されたカナダ農業食料省の2018/19作物年度の生産見通し報告書及び2019/20作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及び

表1 米国の銘柄別作付・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
オーストリアンウィンターピー 3/	6,640	(未詳)	4,410	(未詳)	1.28	(未詳)	5,620	(未詳)
ヒヨコマメ 4/	347,870	226,420	341,070	221,650	1.69		577,970	
乾燥インゲンマメ 4/	842,160	528,930	815,860	509,630	2.08		1,700,700	
乾燥エンドウ 3/	346,620	415,620	326,950	393,360	2.21		722,530	
レンズマメ	315,660	216,510	290,570	205,580	1.31		381,380	
リンクルドシードピー 3/	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	17,640	(未詳)

データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は2019作物年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

作物生産量:2019年7月11日公表。米国農務省(USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局(NASS)。

作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、メートル法のトン(t)で表示しており、2018年度及び2019年度について米国が公表したもので、2019年度については今後も引き続き公表される。

(未詳)データが入手できていない。

3/2019年度から、オーストリアンウィンターピー及びリンクルドシードピーについては、乾燥エンドウに含めることとなった。

4/2019年度から、ヒヨコマメは乾燥エンドウから除外されることとなった。

5/2019年度から推定が行われていない。

ダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

## 乾燥エンドウ

2018/19作物年度のカナダの輸出量は、中国及びバングラデシュで需要が強まったことから2017/18作物年度に比べてやや増加して310万tとなった。8月から4月までの期間のカナダから米国への輸出量は、前年同時期の水準を下回っており、これは主として米国の乾燥エンドウ収穫量が増加したことによるものである。カナダの期末在庫量は、国内利用量が増加し、輸出需要が相変わらずであることから、大幅に減少する見込みである。乾燥エンドウの平均価格は、黄色乾燥エンドウの価格の低下分が緑色エンドウ及び飼料用エンドウの価格の上昇で相殺されたことから、2017/18作物年度に比べて上昇する見込みである。

黄色乾燥エンドウの緑色乾燥エンドウに

対する価格上乘せ分は、作物年度を通して平均135ドル/tとなる見込みであるが、2017/18作物年度には40ドル/tであった。5月の1ヵ月間に、黄色乾燥エンドウの生産者価格がわずかに上昇した一方で、乾燥エンドウの作付けが平年並みのペースで進行したことから、緑色乾燥エンドウの価格は10ドル/t低下した。

2019/20作物年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、2018/19作物年度に比べて12%増加して160万haとなる見込みであるが、これは前年度に比べて収益性が向上していることと輸出需要が堅調であることによるものである。州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の54%を占めており、アルバータ州が42%を占め、残りの作付面積はカナダ各地に散在している。

生産量は、作付面積が増加して単収が変わらないことから、12%増加して400万tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が

減少していることから供給量の増加はわずかとなる見込みである。中国及びバングラデシュがカナダ産乾燥エンドウ市場の上位を占めており、輸出量はやや減少する見込みである。期末在庫量は増加して40万tとなる見込みであるが、これは長期的な平均値と等しい値である。平均価格は2018/19作物年度と変わらないが、これは国内供給量及び世界的な供給量がともに増加の見込みであることによる。

米国の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、わずかに増加して36万4,000haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州での作付面積の増加が、ノースダコタ州での作付面積の減少によって相殺される見込みであることによる。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、3%減少して70万tとなる見込みである。米国はカナダ、フィリピン及びイエメンへの少量の緑色乾燥エンドウの輸出に成功しており、2019/20作物年度もこの市場に占める割合が維持される見込みである。

## レンズマメ

2018/19作物年度のレンズマメ輸出量は、2017/18作物年度から大幅に増加して180万tとなる見込みである。主要な市場はインド、トルコ、アラブ首長国連邦及びバングラデシュである。国内総利用量は前年度に比べて減少して40万tとなる見込みである。期末在庫量は減少する見込みである。すべての

銘柄及び等級のレンズマメの平均価格は、大粒緑色レンズマメの期末在庫量が増加したことと、インドでラビ作(rabi、乾季に当たる10月から4月の栽培期間)の豆類の収穫量が多い見込みであることで、大幅に低下する見込みである。今作物年度はこれまでのところ、大粒緑色レンズマメの価格が赤色レンズマメの価格に対してわずかではあるが引き続き有利(70カナダドル/t)となる見込みである。5月中にサスカチュワン州産の大粒緑色レンズマメ及び赤色レンズマメの生産者価格は20ドル/t上昇した。

2019/20作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は10%減少して140万ha足らずとなる見込みであり、これは2018/19作物年度後半にレンズマメの生産者価格が大幅に低下したことによるものである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積の91%を占め、残りをアルバータ州及びマニトバ州が占める見込みである。生産量は、AAFCの予測によれば、減少して200万tとなる見込みである。期初在庫量及び生産量が減少していることから、供給量は減少して280万tとなる見込みである。輸出量は2018/19作物年度と変わらず180万tとなる見込みである。期末在庫量は減少して50万tとなる見込みである。等級別の分布が平年並みであるとの予測のなかで、最高級の等級の価格が上昇しており、平均価格は2018/19作物年度に比べて上昇する見込みである。

米国の2019/20作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2018/19作物年度に比べて29%減少して22

万2,600haとなる見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州の作付面積が減少したことによる。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとすると、AAFCの予測によれば、2019/20作物年度の米国のレンズマメ生産量は、2018/19作物年度に比べて大幅に減少して30万t足らずとなる見込みである。米国産レンズマメの主要な市場は、引き続きEU諸国、カナダ、インド及びメキシコである。

### 乾燥インゲンマメ

2018/19作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ輸出量は、2017/18作物年度に比べて減少する見込みである。米国及びEU諸国が引き続きカナダ産乾燥インゲンマメの主要な市場であり、日本及びアンゴラへも少量が輸出されている。北米からの供給量が減少したことで、2018/19作物年度の残りの期間も引き続き、米国産及びカナダ産の乾燥インゲンマメの価格は下支えされる見込みである。

2019/20作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、他の作物に比べて収益性の低下が予測されることから、2018/19作物年度に比べて8%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の39%を占め、マニトバ州が32%、アルバータ州が18%を占めており、残りがサスカチュワン州、ケベック州及び沿海諸州となっている。生産量は減少して31万tとなる見込みである。供給量は、期初在庫量が多かったことから、増加の見

込みである。供給量が増加したことにより、輸出量はわずかに増加する見込みである。期末在庫量は、増加する見込みである。特にホワイト・ビーン及びピントー・ビーンについて北米での供給量が減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は、概ね変わらない見込みである。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、わずかに増加して48万5,600haとなる見込みであり、これは主要生産州であるネブラスカ州及びノースダコタ州での作付面積の減少が、より生産量の少ないいくつかの州での作付面積の増加によって相殺されたことによる。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとすると、2019/20作物年度の米国の乾燥インゲンマメ総生産量(ヒヨコマメを除く)は、2018/19作物年度に比べて6%減少して110万t足らずとなる見込みである。

### ヒヨコマメ

2018/19作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、減少して10万5,000tとなる見込みである。パキスタンの輸出需要が高まったが、米国及びトルコでの需要が低下したことで相殺された。期末在庫量は大幅に増加して、価格が抑制されるものと見込まれる。2018/19作物年度の後半から2019/20作物年度の前半にかけて世界的にヒヨコマメの供給量が増加すると予測されていることから、平均価格は前作物年度に比べて大幅に低下する見込みである。

表2 カナダの豆類の作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]
作付面積 (1,000ha)	1,656	1,463	1,633	1,783	1,525	1,378	135	143	131	68	179	135
収穫面積 (1,000ha)	1,642	1,431	1,600	1,774	1,499	1,360	131	137	128	68	176	133
単収 (t/ha)	2.5	2.5	2.5	1.44	1.4	1.47	2.45	2.49	2.42	1.49	1.77	1.73
生産量 (1,000t)	4,112	3,581	4,000	2,559	2,092	2,000	322	341	310	102	311	230
輸入量 (1,000t) [b]	12	35	15	35	20	20	86	90	80	48	40	18
総供給量 (1,000t)	4,424	4,264	4,315	2,908	2,985	2,795	409	466	480	151	365	433
輸出量(1,000t) (b)	3,085	3,100	3,000	1,537	1,800	1,800	351	345	350	116	105	100
国内総利用量 (1,000t) (c)	691	864	915	498	410	495	23	31	25	21	75	73
期末在庫量 (1,000t)	648	300	400	873	775	500	35	90	105	13	185	260
在庫量/利用量(%)	17	8	10	43	35	22	9	24	28	10	103	150
平均価格 (\$/t)(d)	265	260-280	255-285	475	375-395	430-460	760	805-825	800-830	950	480-500	465-495

[a]作物年度(8月から7月)。

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c]国内総利用量=食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: カナダ農業食料省による推定。但し、2018/19 年度以前の作付面積、収穫面積、単収及び生産量、並びに2017/18年度以前の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量については、カナダ統計局による。

資料: カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省(AAFC)。

2019/20作物年度の作付面積は、2018/19作物年度に比べて大幅に減少する見込みであるが、これは前作物年度に生産者価格が大幅に低下したことによる。州別にみると、サスカチュワン州がカナダ全体のヒヨコマメ作付面積の82%を占めており、残りをアルバータ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。生産量は大幅に減少して23万tとなる見込みである。期初在庫量が増加したことから供給量は増加する見込みであるが、輸出量及び生産量が減少していることで増加の幅は抑えられている。輸出量はわずかに減少する見込みであり、期末在庫量は増加して引き続き重荷となる見込みである。世界的に供給量が増加しているこ

とと、2019/20作物年度の等級別の分布が平年並みであると予測されることにより、平均価格は低下する見込みである。

2019/20作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前作物年度に比べて40%減少して21万400haとなる見込みである。これは主としてアイダホ州、ノースダコタ州及びワシントン州で作付面積が減少したことによる。単収及び収穫を断念する面積の割合が平年並みであるとすると、2019/20作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、2018/19作物年度に比べて43%減少して22万tとなる見込みである。米国は引き続き、EU諸国、パキスタン及びカナダにおける市

場占有率を維持する見込みである。

## オーストラリア：2019年6月11日公表

### ABARES Australian crop report

#### 概観

2019/20冬作年度の始まりは、良好な条件と不利な条件が入り混じった状況となった。南オーストラリア州、ヴィクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部の主要生産地域では、5月の降水量が平年並みを上回り、土壤水分含有割合が回復して作付け及び生育に適した条件が整った。しかし、西オーストラリア州、ニューサウスウェールズ州北部及びクィーンズランド州南部の大部分の主要生産地域では、秋季の降水量が平年並みを下回り、土壤水分含有割合が引き続き低い値となった。

これらの地域では、降水量が平年並みを下回ったことと、土壤水分含有割合が低かったことにより、作付けが抑制され、乾燥状態で作付けされた作物の生育が妨げられた。土壤水分含有割合が低かったことで、これらの地域の大部分の作物が、冬季を通じて適正に生育していくには、今後、十分な降水量が適期にもたらされる必要がある。南オーストラリア州、ヴィクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部では、秋季の終わりに好条件の土壤水分含有割合が得られたことから、冬季の降水量に他の地域ほど依存する必要はない。

気象庁が2019年5月30日付けで発表した

最新の降水量3ヵ月予測では、冬季の降水量は、西オーストラリア州では平年並みの見込みであり、その他の大部分の生産地域では平年並みを下回る見込みである。

降水量が中程度に留まると見られている大部分の生産地域では、ここまで順調に生育した作物が春まで持ちこたえるだけの降水量が、今後に得られるかどうかが作柄を左右する鍵となる。

オーストラリアの2019/20冬作年度の総作付面積は9%増加して1,960万haとなるものと予測されているが、これは主として2018/19冬作年度と比べて、穀物及び油糧種子の作付面積が増加したことと、干し草の作付面積が減少したことを反映したものである。

主要な冬作物についてみると、コムギの作付面積は8%増加して1,100万ha前後となり、オオムギの作付面積は12%増加して420万haとなり、ナタネの作付面積は6%増加して200万haとなる見込みである。

その他の作物としては、ヒヨコマメの作付面積は約22%増加して37万haとなり、オート麦の作付面積は17%増加して79万8,000haとなる見込みである。

2019/20冬作年度の冬作物の総生産量は、前年度に比べて約20%増加して3,640万tとなる見込みである。しかし、20%の増加といっても、前年度の2018/19冬作年度は、特に西オーストラリア州の周辺を始めとする多くの生産地域で、霜害及び平年並みを上回る乾燥状態の影響が生じた年度であった。見込みどおりの収穫が実現するものと

すると、2019/20冬作年度の総生産量は、2018/19冬作年度までの10年間の平均を10%程度下回るであろう。主要な冬作作物で見ると、コムギの生産量は23%増加して2,120

万tとなり、オオムギの生産量は11%増加して920万tとなり、ナタネの生産量は18%増加して260万tとなる見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2017-18	2018-19 s	2019-20f	2017-18	2018-19s	2019-20f
ヒヨコマメ	1,075	303	370	998	282	366
ファバビーン(ソラマメ)	313	178	227	416	217	326
フィールドピー	291	179	202	317	152	249
レンズマメ	418	303	285	543	323	384
ルーピン	612	500	483	714	693	678
オート麦	874	680	798	1,227	888	1,307
ライ小麦	55	66	72	87	89	110

f:ABARESによる予測。s:ABARESによる推定。

注：作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるのかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表4 オーストラリアの豆類供給量及び利用状況

作物名	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18s (1,000t)
生産量						
ルーピン	459	626	549	652	1,031	714
フィールドピー	320	342	290	205	415	317
ヒヨコマメ	813	629	555	875	2,004	998
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	290	286	306	398	637	273
フィールドピー	145	175	124	72	148	189
ヒヨコマメ	1	0	1	1	1	1
輸出品						
ルーピン	169	340	243	254	395	441
フィールドピー	177	169	168	134	268	130
ヒヨコマメ	853	629	663	1,145	2,293	724

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出品を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。s:ABARESによる推定。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出品のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出品の数値と一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の規模の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表5 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)										
ヒヨコマメ												
2019-20 f	100	123	20	24	180	198	12	15	8	12	0	0
2018-19 s	22	22	20	20	200	190	25	25	8	12	0	0
2017-18	450	407	77	78	507	467	34	38	7	8	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	312	399	31	36	335	476	22	23	5	7	0	0
フィールドピー												
2019-20 f	27	26	55	65	0	0	85	110	35	48	0	0
2018-19 s	39	29	50	35	0	0	70	50	20	38	0	0
2017-18	75	46	84	91	0	0	102	137	31	42	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	53	60	58	62	0	0	99	114	26	39	0	0
レンズマメ												
2019-20 f	5	4	110	120	0	0	160	250	10	10	0	0
2018-19 s	7	5	125	105	0	0	160	200	11	13	0	0
2017-18	2	1	210	261	0	0	198	274	8	6	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	3	4	128	137	0	0	147	249	4	4	0	0
ルーピン												
2019-20 f	38	32	40	41	0	0	45	55	360	550	0	0
2018-19 s	50	38	30	20	0	0	40	35	380	600	0	1
2017-18	95	46	49	52	0	0	66	82	402	532	0	1
2018/19作物年度までの5年間の平均	69	65	38	38	0	0	61	69	352	555	0	0

f:ABARESによる予測。

s:ABARESによる推定。

注:作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia